

ひらめき ときめきサイエンスによる京都大学信楽MU観測所の中高校生向アウトリーチ「レーザービームで気象観測をやってみよう」

Outreach activity for high-school students at Shigaraki MU observatory, Kyoto Univ. with a Hirameki-tokimeki-science by JSPS

中村 卓司 [1]; 山本 衛 [2]; 橋口 浩之 [1]; 山本 真之 [1]

Takuji Nakamura[1]; Mamoru Yamamoto[2]; Hiroyuki Hashiguchi[1]; Masayuki Yamamoto[1]

[1] 京大・生存研; [2] 京大・生存圏研

[1] RISH, Kyoto Univ.; [2] RISH, Kyoto Univ.

最先端の大型研究設備を中高生に紹介してその研究内容を披露することは、中高生の科学への興味をひきつける上で有効ではないかと考える。京都大学・生存圏研究所のMUレーダー（中層・超高層大気観測用大型レーダー）や大型レイリー・ラマンライダー（レーザーレーダー）、種々のレーダー観測装置などはまさにその範疇に入ると思われる。しかしながら、上記の観測装置が滋賀県甲賀市信楽町の国有林中の信楽MU観測所あるように、アクセスが容易な大学キャンパス内ではない遠隔地、とくに公共交通機関のない場所にある設備の場合には、なかなか中高生を呼び寄せる有効な機会がないのが実情である。我々は、日本学術振興会が科研費の研究成果の社会還元・普及事業のプログラムとして推進している「ひらめき ときめきサイエンス」の制度を利用して、「レーザービームで気象観測をやってみよう」というタイトルで信楽MU観測所の大型観測装置を紹介し、ライダーやレーダーによる地球大気の観測について学習してもらう企画を行なった。キャンパスから車で1時間以上離れた遠隔地の山中に、41名の中高生を迎え入れて行なった本企画では、MUレーダーおよびライダー装置の見学、ラジオゾンデ（気球）観測実演、ライダー観測と関連する科研費の成果の講演、大気レーダー観測の講演、それに日没後のライダー観測実演と幸い天候にも恵まれて予定されたスケジュールを実施することができた。また、往復のバスの中や休憩時間、食事時間、所内の移動時間などに中高生と研究者との交流も活発に行なわれたと思われる。当日の参加者の様子、アンケート結果、メール等で頂いた謝辞などから、中高生の科学への興味を大いに刺激することが出来たのではないかと考えている。本発表では、今回の「ひらめき ときめきサイエンス」の概要を報告する。